

（現代史プリント1-6） イラク戦争の実際

生徒番号（ ）氏名_____

ビデオ 佐藤和孝が見たイラク戦争（NTVニュースより）

このビデオはNTVの特派員としてイラク戦争下のバグダッドに残ったシャパンプレス社の佐藤和孝と山本美香が戦時下そして戦後のイラクを取材したもので、5月5日、読売テレビ「その日の出来事」のなかで放映されたものです。なお、右の資料はビデオでも紹介されたインターネット上の、山本美香の取材日記のなかのバグダッド陥落の日の分です。

このビデオを見て特に印象に残ったシーンを、その理由もあわせて書いてください。

このビデオを見て思ったこと、わかったこと、疑問に思ったことなどを書いてください。
（内容に関することに限ります）

=====バグダッド通信 by 山本美香 Mika Yamamoto=====

20030409（水）米軍バグダッド制圧

PM 4 時 30 分米軍の機甲部隊がパレスチナホテルの前に集結。その数、20 両以上か。米軍のバグダッド制圧を自分の目で見た瞬間だ。砲塔がくると回り、砲身が私の目の前に向いた。バタバタと兵士たちが降りてきて、自動小銃を構える。パキスタン人（？）の女性が一人駆け出して、「戦争反対！」と叫んでいる。人間の盾の女性だろう。兵士が「後ろに下がって」とさえぎっても、たった一人で兵士に向かって叫びつづけていた。

銃口はパレスチナホテルを向いている。「なぜホテルに向けるんですか」臨戦体制の兵士に聞いた。「見ているだけだ」と答える兵士。

カメラマンが競ってシャッターを切ると兵士の顔がほんの少しほころんだ。緊張感はない。これは、一種のセレモニーなのかもしれない。戦車に乗っている兵士たちが笑顔で手を振っているが、それに答える報道陣はほとんどいない。

機甲部隊が集結してほんの数十分後、どこから現れたのか、20 人ほどのイラク人が行進して来た。口々にサダムフセインをののしり、アメリカを称えている。フセイン像の前に集まり、銅像にのぼりはじめる。首に縄をかけ、ひっぱっているが2、3人の力では到底無理なこと。

機甲部隊が集結してからおよそ1 時間半、結局、銅像を倒すことはできず、そうこうしているうちに米軍の牽引車が広場に入り米軍主導のセレモニーになった。牽引車の上に乗っているイラク人には救援物資と思われる黄色のビニールパッケージが手渡されていた。簡易食糧が入っているのだろう。

数人の米軍兵士がクレーンによじ登りアメリカ国旗をフセインの顔にかぶせた。そして今度はイラク国旗をネクタイのように首に結んだ。

PM 6 時 50 分、米軍の牽引車が引っ張るとフセイン像は、グニャリと前かがみに倒れた。引きずり下ろされた銅像の上にイラク人が飛び乗り、歓喜の声をあげながら踏みつける。周囲では、口笛が鳴り、拍手が起る。私のすぐ横では、また黄色のパッケージが配られ、イラク人が奪い合っていた。

ふと二重、三重になっている人垣の外側を見ると、冷めた目でその様子を見つめるイラク人たちの姿があった。集まった人数は、およそ200 人。そのうち半数は、報道陣だったと思う。

100 メートルほどしか離れていないホテルの中庭では、多くのイラク人が目を真っ赤にして涙を流していた。男性も女性も少女も。

この瞬間、彼らは国を失った。米英軍によってフセイン政権は倒された。

しかし米軍によって制圧されたことを喜ぶ人はどれだけいるのだろうか。

イラク人スタッフの間でも様々な意見が出ていた。フセイン政権崩壊を喜んでいる点では一致しているが、それが米軍の手によってもたらされたことに不快感を示す人も多い。

『フセイン大統領はお父さんみたいな存在』

そのお父さんを追い出した米軍を両手を広げて歓迎する気にはなれない…。というのも本音のひとつ。

アリさんは、今まで盗聴を恐れて声を潜めていた。

しかしこの時を境に表情がぱっと明るくなり、「フセインはいなくなった」と声高に叫んだ。

これまで彼がホテルの部屋で声を潜めるたびに、

「盗聴なんてされてません。ホテルの部屋一つ一つに仕掛けて、だれがチェックするの？大丈夫ですよ」と説得しても、シーッと口に手をやって天井や壁をキョロキョロ見回し、耳を指差す。

政治に関する話や空爆で政府関連施設が破壊された情報などは、口には出さず、紙に書いて私たちに伝え、

そのあと燃やしてトイレに流す入念ぶり。

これが恐怖政治の効果なのだろう。

実際に盗聴されていなくても盗聴されているかもしれないと思わせ、

人々の心を疑心暗鬼にさせる。長年の恐怖政治は、かなり効果があったようだ。

そのアリさんが、呪縛から解かれたように大声で言いつづけている。「フセインは終わった」と。